

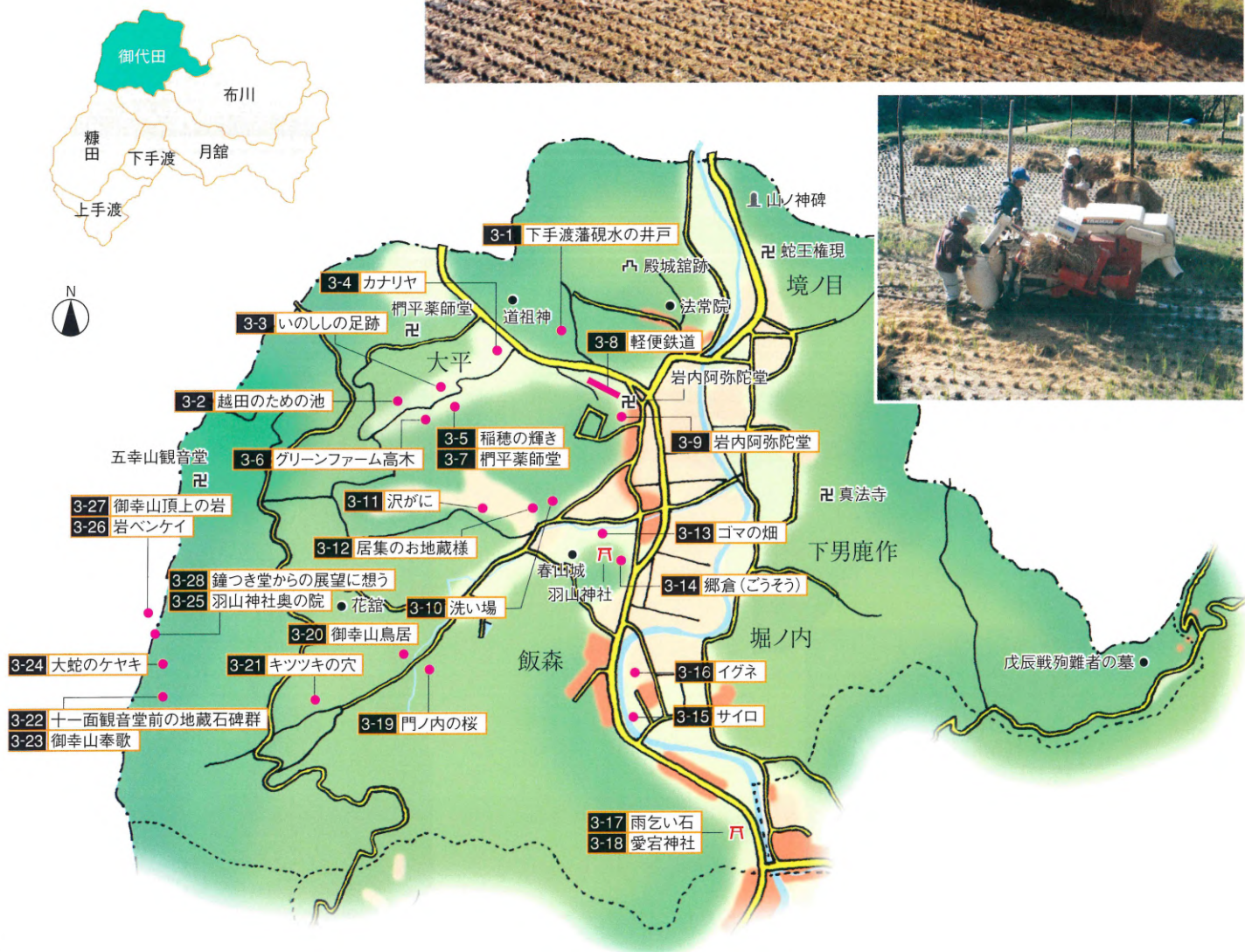
道筋にはさまざまな暮らしの知恵が、
地域を見下ろす山の上には信仰されてきた神様がありました。

御代田 地区

南北に走る国道349号線沿いに集落のある御代田。そこには水辺の跡や暮らしの知恵がいまも息づいていました。そして西にそびえる御幸山は、御代田を守り続けてきた山。頂上に立てば、今も感慨が胸に迫ります。子どもたちも参加して、ユニークなお宝をつぎつぎ発見しました。

美しい水田をつくり上げた先人を思う

3-5 いなほ かがや 稲穂の輝き 秋になると、浜井場から大平へ抜ける山道からの景観はすばらしい。山あい水田は黄金色に輝き、米が経済の中心であった時代の豊かさを映し出しているかのようです。奥州裏街道に近い水田の輝きは、他の眺望を圧倒したことでしょう。最近農家離れがすすみ、農業の価値観が崩れて文化が変わろうとしている時代ですが、先人が懸命に生きた姿を思い、それを引き継ごうと思います。(御代田字越田地内)



水のある風景は、地域の豊かさそのもの

3-2 越田のため池 数百十年前に、農業用水のため池として作られたといひます。風水害などで荒れていましたが、平成15年に多額の費用をかけて立派に整備復元されました。あちこちの沢から清水が流れこむため、夏には蛍が飛びかう所として知られています。霊山が眺められる見晴らしの良い所なので、蛍の里として名所にはいかがでしょう。(御代田字越田地内)



3-1 下手渡藩硯水の井戸

江戸時代末期に、下手渡藩の殿様が使う硯の水をくむため数日おきに家来が来た場所だそうです。国道349号線よりもかなり高台にあります。干ばつの年でも水が枯れることはありません。現在も飲料水として使われています。(御代田字久保地内)



森や川で見つけた！野生の生きもの、そしてこんな作物も

3-3 イノシシの足跡 土のやわらかいところに、子どものイノシシの足跡がありました。田んぼの近くで泥がある場所ですが、イノシシは虫よけのために身体を泥にこすりつけることがあるそうです。小さくてかわいい足跡ですが、危ないので気をつけまう。(御代田字越田地内)



3-11 沢がに 沢の石をとると、茶色いカニがいました。きき手の方のハサミが緑色で大きいカニです。またカニをとりたいです。(御代田字浜井場地内)



3-21 キツツキの穴 山神神社の境内で、木に穴があいていたのを発見しました。キツツキの穴だそうです。これが作られたのは2,3年前だということです。初めてキツツキの穴を見てびっくりしました。口ばしでつついてあけるのがすごいと思いました。写真奥の鳥居は、信者が参拝するたびに石を積み上げるので、半分以上埋まっています。(御代田字御幸山地内)



御代田の人々が育てるかわいい生きものたち

3-6 グリーンファーム高木 牛がたくさんいましたが、馬は7頭でした。1頭はポニーで足がふるえていました。とてもかわいかったです。馬や牛はある程度の大きさまで育ててから、飼主に戻されるそうです。やがて競馬用や乗馬用として活躍することでしょう。(御代田字櫛平地内)



3-4 カナリア カナリアを数千羽ほど飼っているそうです。カナリアは生まれたときは色がなく、えさと一緒にカロチンを食べさせると、きれいなオレンジ色になると聞いてびっくりしました。虫にさされて病気にならないよう気をつけて育てているそうです。黄色や赤のほか黒っぽいローラーカナリアもありました。(御代田字越田地内)



3-13 ゴマの畑 御代田公民館を過ぎて左に行き、居集のお地蔵様に向かう途中にある俗称ゴマの木です。用水路のすぐそばの畑にあり、意外に高さがありました。普段食べているゴマが、こんな風に実っているものだとは思いませんでした。木の下の方はヒマワリに似た感じです。(御代田字四升田地内)



地域の人々の足だった鉄道輸送

3-8 軽便鉄道 大正から昭和初期にかけて川俣町から霊山町、掛田を結んでいた軽便鉄道の線路跡です。速度は自転車と同じくらい。料金は3段階で、登り坂になると、一等料金の人は乗ったまま、二等は降りて歩き、三等は後押しをしたそうです。田んぼ道だと思っていたところに、昔は鉄道が通っていたとは思いませんでした。
(御代田字六角地内)



どの家の周りにもあった生活のための小さな川

3-10 洗い場 昔は一軒一軒の家ごとに、小川に面した洗い場がありました。米とぎや洗物、風呂の水や洗たくなどに使われたそうです。現在のように上水道がなかったので、雨降りや洪水の時などは大変だったようです。当時の様子はのどかだったと感じますが、使われなくなった原因は水質の悪化なのでしょうか。環境汚染なども気になります。
(御代田字平内地内)



飢きんに、天災に、風に備えた安全策

3-14 郷倉 羽山神社の隣に黒っぽい板壁の建物があります。土台はコンクリート。床下が高く、通気口も大きくとられていますが、今は使われていません。昭和初め、飢きんに備えてつくられた恩賜郷倉で、備蓄米を入れておきました。農村の歴史を物語る重要な遺産だと思います。是非、大事に残してほしいものです。
(御代田字館山地内)



3-15 サイロ コンクリートでできた円柱形で、高さは約3メートルあります。刈った草などを入れておいて、草のない時期に牛に食べさせます。サイロがあるので、昔は御代田でも牛を飼っていたことがわかりました。昭和35年から40年頃まで飼っていたそうです。
(御代田字川原地内)



3-16 イグネ 家の周りに木や竹などが植えられており、風や雪、西日などを防ぐ役目をしています。普通は家を建てる時山を背にして建てますが、山のない平らな場所ではイグネのような工夫をしていました。家の周りの環境を整えたのだと思います。
(御代田字川原地内)



今も語り継がれている石にまつわる言い伝え

3-17 雨乞い石 愛宕神社の境内に雨乞い石と呼ばれる石があり、その石に座ると雨が降るといいう言い伝えがあります。昔から、お祭りなどの時には「すわるな」と注意されたといひます。青年会などで集まる時も、腰かけたりすると「雨が降るからやめろ」と言われたことがあります。
(御代田字上関山地内)

3-18 愛宕神社の石切り場跡 愛宕神社周辺は、昔石切り場だったそうで、現在も境内やその周りには大きな石が残っています。石を切った際のノミの跡も残っており、ここの石は羽山神社の鳥居などに使われました。愛宕神社からの眺めはとても良く、御代田地区が一望できます。真下には月舘小学校が見えています。
(御代田字上関山地内)



御代田の「種まき桜」はこの大木

3-19 門ノ内の桜 推定で300から400年の桜で、月舘にある古い3本の桜の1本です。昔から、この桜の花の咲き具合を田の耕作の目安にしていたそうです。太さは子供が3人手をつないだらうと思いますが、一部枯れているところがあります。
(御代田字門ノ内地内)



地域の人々が祈り続けてきたお堂とお地蔵様

3-7 くぬぎだいらやくしどう **櫛平薬師堂** 江戸の昔、仇討ちで勘違いされて侍に生き埋めにされたおばあさんの霊を慰めるために建てられた、という言い伝えがあります。そういう話が残っているのがすごいと思いました。生き埋めにしたというのは怖いですが、実際に起こった事が今に伝えられて、それをまた私達が伝えていけたらいいな、と思いました。(御代田字櫛平内地内)



西にそびえる御幸山は神様が住むところ

3-20 ごこうぜんとりい **御幸山鳥居** 菖蒲沢ポンプ場の脇を通過して登山口をすむと、右手の林の奥に御幸山の鳥居が見えてきます。写真下から右手に向かって上る参道は草に覆われていますが、かつてはたくさんの人々が参詣のために通りました。この道は登山道としては使われていないようで、道標もありません。御幸山は信仰の山でもあり、この道をぜひ活用してほしいものです。(御代田字門ノ内地内)



3-9 いわうち あみだどう **岩内阿弥陀堂**

岩内団地への途中の右上手に阿弥陀堂があり、阿弥陀如来像と増長天像が祀られています。壁には般若心経がありますが、文字が読めない人にもわかるように絵で描かれているのに驚きます。すべての人に読めるようにという工夫でしょうか。きれいに手入れされたお堂には信仰の篤さを感じます。(御代田字岩内内地内)



3-12 いしゆう **居集のお地蔵様**

昔、川の底に平らな石がありました。これはいい石だ、使えそうだと思っておこしてみると、お地蔵様でした。平らなのは背中だったそうです。おそらく上流から流れてきたのでしょう。驚いて大切に祀ったそうです。大きなお地蔵様は今もしあわせそうな顔をしています。(御代田字居集内地内)



3-22 じゅういちめんかんのんどうまえ **十一面観音堂前の地蔵石碑群**

十一面観音堂の前にある地蔵石碑は、首から上が折れてなくなっているものが多いです。明治維新後の排仏毀釈でこわされたと思われるのですが、堂には明治12年の献額があり、この地域で観音信仰が根強かったことをうかがわせます。地元の人々が、この山や観音堂をずっと大切にしてきたことを感じました。(御代田字御幸山内地内)



3-23 ごこうぜんほうか **御幸山奉歌**

十一面観音堂に額が奉納されており、御幸山をよんだ歌が書かれています。達筆なのでどういふ歌か理解できませんでしたが、色々奉納された額の中でも珍しいと思いました。今の月舘では川柳がさかんですが、この額などが元祖なのかとも思いました。(御代田字御幸山内地内)



山頂付近で発見したのは、大ケヤキと奇岩

3-24 大蛇のケヤキ

御幸山には、観世音堂を山火事から守って自ら焼け死んだ大蛇の伝説があります。その大蛇を思わせる大きなケヤキの根があって、大蛇がケヤキに身をかえて御幸山をお守りしているようにも見え、大きな蛇が今にも動きださそうです。(御代田・御幸山山頂付近)



3-26 岩ベンケイ

御幸山頂上の岩に生えている高山植物です。岩場を好むそうで、岩目に小さい芽を強く伸ばしていました。花が咲く時期に来てみたいです。(御代田・御幸山山頂)



3-27 御幸山頂上の岩

御幸山頂上付近の岩は、3,500万年から4,000万年前に火山の噴火でできた火山岩だそうです。4,000万年前なんて、岩の歴史はすごいと思いました。(御代田・御幸山山頂付近)



御代田を見下ろす山頂に立って思うこと

3-25 羽山神社奥の院

御幸山山頂に建つ、さほど大きくない建物です。裏には洞窟があり、御神体が祀られています。山頂からは、福島市内の展望と阿武隈高地の山並みが遠望でき、四季折々に登山を楽しみたいものです。(御代田・御幸山山頂付近)



3-28 鐘つき堂からの展望に想う

堂からは御代田の眺めが素晴らしいです。私は最近、御代田に移り住みましたが、ここから眺めていると、子どもたちの故郷となる御代田の発展を願うと同時に、自然が失われていくことへの思いもつづります。この展望が強く胸に刻まれました。(御代田・御幸山山頂付近)



特集 御代田



御代田の六角地内の軽便鉄道の線路跡。

大正ロマン

～時代を駆け抜けた軽便鉄道～

小さな蒸気機関車が月舘を走りぬけていた。
新しい時代の夢を胸に、みんなが鉄道に乗り込んだ。
いま、その名ごりを訪ねてみる。

大正時代から昭和の初めにかけて月舘の道路を鉄道が走っていた時代がありました。鉄道といっても今の東北本線の電車のようなものではなく、小さな軽便鉄道（蒸気機関車）でした。

当時の月舘では蚕糸業が盛んで、軽便鉄道は糸を買い付けに来る商人や、養蚕の仕事を求めて集まる人々の足となり、またその糸を運び出す大きな役割を果たすものと期待されましたが、時速はおよそ20km程度しか出ず、登り坂では子どもの歩く速さよりも遅かったそうで、のどかな時代でした。

文明開化の明治時代に横浜―新橋間に日本で初めて鉄道が走ってから半世紀余り。自分たちの町に鉄道が走るということは、長年待ち望んでいたことであり、大きな喜びであったことでしょう。

この軽便鉄道の会社は「信達軌道株式会社」といい、大正4年12月13日に掛田―川俣間に開通。線路は、だいたい現在の国道にあたる路面を利用して、御代田と舘の腰には無人ながらも駅が設けられました。写真は現在の御代田字六角地内で、まっすぐ伸びた細い道が軽便鉄道の線路跡です。

運賃は一区間の運賃が6銭でそのほかに通行税が1銭かかりました。当時は米が1升15銭前後でしたから決して安くはあり

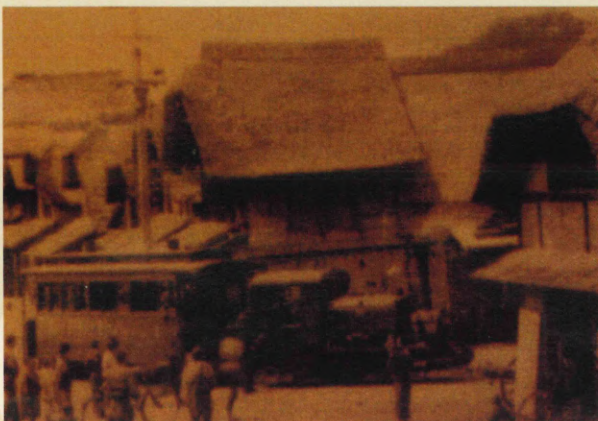
ませんでした。

大正10年になると信達軌道株式会社は運送業を開始し、物資の輸送が始まりました。

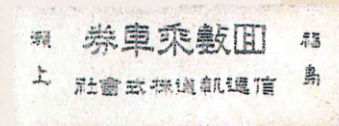
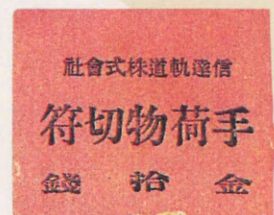
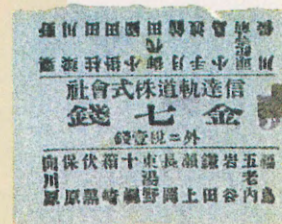
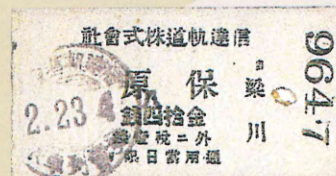
しかし、順調に走り始めたかに見えた軽便鉄道はその後、大きな転機を迎えます。福島市鎌田では、蒸気機関車の石炭を燃やす煙の火の粉から茅葺屋根に燃え移り、46戸の人家が焼ける火事が起きたり、御代田ではある雨の強い日にカーブで機関車が脱線転覆し、運転士が蒸気釜の下敷きになる痛ましい事故も起こりました。

福島では鉄道を電化してスピードをアップすると共に、輸送力を増強する動きになってきていましたが、掛田―川俣間は電化しても採算が合わないと言われ、昭和2年6月28日に軽便鉄道は残念ながらその役割を終えることになりました。わずか12年の間でしたが、人々に大きな驚きと喜びを与えた「軽便鉄道」は、人の心に新時代の希望を抱かせ、産業の発展に寄与した功績は大きなものがあったと思います。

軽便鉄道が走る当時の町並みを思い浮かべながら町内を歩くと、鉄道の響きと人々の歓声が聞こえてくるような気がします。



福島交通の前身、信達軌道株は、福島を起点に県北地区に鉄道網を敷設した。



軽便鉄道で使われていた切符